

(別記様式)

平成24年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(**計画段階** ・ **実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>◇ 何事にも主体的・積極的に取り組み、自己実現を目指しながら努力するなど、将来社会に貢献できる人間を育成する学校づくりを行う。</p> <p>◇ 人権尊重の立場に立って、自らを大切にし他を思いやることのできる豊かな心を持った生徒を育成する。</p> <p>◇ 生徒の実態を踏まえ、自ら学ぶ学習態度を育成し学習指導の充実強化に努める。</p> <p>◇ 基本的な生活習慣の確立を図り、自主・自立の態度を備えた生徒を育成する。</p> <p>◇ 進路指導を適切に行い、個々の進路目標を達成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none">学力向上フロンティア校支援事業における司法書士による「法教育」の授業(4回シリーズ)は、95%以上の生徒が「将来役に立つ」と回答するなど大変好評だった他、学習の基礎・基本を徹底させて学力の向上を目指すための「学びの原点」を完成させることができた。地元を中心に多数の大学の協力を得て「サイエンスリサーチシリーズ」・「ヒューマンリサーチシリーズ」を継続実施した他、新規の内容を実施し、高大連携の充実を図ることができた。また、京都高大連携研究協議会「実践研究共同教育プログラム」での特別講義や生徒のレポート発表等の実践は、校内では「ヒューマンリサーチシリーズ」の一環として取り組んだ。次年度も継続して、共同研究に取り組むことになっている。キャリア教育における「インターンシップ」を、「山科経済同友会」等の協力により、多くの地元企業で実施することができた。その他、大学や地域から社会人講師を招いたり、施設見学するなど、キャリア教育に関する行事もさらに充実した。NIE事業については、複数教科で取り組み、次年度も継続して指定をつけることができた。交通安全指導では、交通安全週間(年7回)に、PTAの役員の方々にも協力していただいた他、地域から様々な情報をいただき、危険箇所については教員とともに山科警察署員の方にも、指導していただいた。また、醍醐十校区自治連合会交通安全推進委員の方々にも協力していただいて、交通安全キャンペーンを実施できた。広報活動についても、ホームページや学校紹介パンフレットの刷新、リーフレット「東稜だより」や「東稜写真館」の定期的発行等、充実したものにできた。女子の活躍の場を提供する目的で、新たな活動の場をさぐるための教職員への調査を実施した。	<p>「真の自己実現にTRY」をスローガンに「人間力」と「質の高い学力」を育むキャリア教育を推進することを継続する。</p> <p>◇ 学力向上フロンティア校支援事業を軸に生徒の授業理解度を高め、家庭学習習慣の形成を促すように指導方法の工夫・改善を進める。新規内容に取り組むことはもちろん、特に「学びの原点」の活用を図ることに重点を置いて、事業を推進する。また、事業の成果を検証できるように工夫をして取り組む。</p> <p>◇ 高大連携については、京都高大連携協議会「実践研究共同教育プログラム」を柱に、さらに充実を目指す。</p> <p>◇ キャリア教育推進に関する研究実践校としての昨年までの実践を継続実施し、進路目標を実現する。特に地域と連携したインターンシップの継続と充実を図る。</p> <p>◇ NIE(教育に新聞を)事業を京都府NIE推進協議会と連携して推進する。</p> <p>◇ 土曜日の活用について実践研究を行い、学力向上を図る。</p> <p>◇ 生徒達の安全・安心な生活を確保するためにPTA、地域、警察等の協力を得ながら、交通安全マナーを中心に学校内外の生活の安全について、学習活動・HR活動・特別活動等すべての活動を通して、実践できる力を身につけさせる。</p> <p>◇ 生徒の心身の発達や健康の増進を図るために、生徒を支えるべく教育相談体制・特別支援教育体制の充実を図る。</p> <p>◇ 地域の学校として、地域への情報発信・地域行事等への参加協力を努め、地域貢献・地域との交流を、積極的、継続的に実践する学校を目指す。</p> <p>◇ 「学校生活の手引き」・「学習の手引き(シラバス)」・「進路の手引き」の三部作に様式を整え、生徒の育成に活用する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教育活動を一致協力して推進する体制をさらに充実させる。	教職員が元気で活躍するための第一歩、教職員間での元気な挨拶の励行等を実践する。事業・行事等のリーダーと役割分担を明確にする。 会議はもちろん、日常から意見交流を活発にできる雰囲気さらに醸成する。		
	現在までの特色ある教育活動を各類型・コースのバランスを図りながら継続させ、将来の東稜高校構想を具体化する。	東稜高校の将来構想に繋がるように「キャリア教育に関する実践研究指定校事業」、「学力向上フロンティア校支援事業」、「NIE事業」、京都高大連携研究協議会「実践研究共同教育プログラム」等の継続、推進を図る。		
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づいた特色ある教育課程を作成し、次世代の高校制度に対応する。	類・類型制度の改革に連動して、平成25年度、26年度入学生の教育課程を作成する。		
	より使いやすく、実践的な「学習の手引き(シラバス)」を作成し、利用の促進を図る。	「学習の手引き(シラバス)」を授業オリエンテーションに利用する。 「学びの原点」と「学習の手引き(シラバス)」の改訂を行う。 シラバスを利用し、類型登録指導を能率化して、スムーズな登録を図る。		
学習指導	授業規律を確保し、家庭学習習慣を定着させ、基礎学力の育成を図る。	始まりのチャイムから終了のチャイムまでの50分間の授業を確保する。 学年部と協力して、生徒の授業参加への良い姿勢の維持・向上を図る。 各教科と協力して、基礎学力補充の計画的実施とその内容の充実を図る。		
	「わかる授業」と「適切な評価」についての研究と研修を推進する。	各教科と連携して、授業改善と評価改善の研究を進める。 公開授業、研究授業を積極的に進める。		
	Ⅱ類文理系、Ⅰ類文理科系クラスの指導を充実し、「使える学力」の伸張を図る。	7時間目授業、進学補習を計画的に実施する。 「土曜学習」を推進して、量的にも質的にも「自ら学ぶ力」の向上を図る。 高大連携を積極的に進め、生徒の学びに対する興味・意欲・関心を高める。		

生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通じて、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	部活動加入率を男子60%、女子40%以上に引き上げ、活発な部活動を養成し、上位大会へ進出する部活動を増加させる。また、地域中学校との交流を活発化し、部活動の活性化と競技力の向上を図る。 地域や各団体主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。 地域の各種ボランティア活動への参加を全校的な取組にする。			
	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導を「学校生活の手引き」に基づき、徹底する。 駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通じて、登下校時の自転車通学マナー向上や基本的な生活習慣の確立を図る。 学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握し、学年アッセンブリー等を活用して、タイミングを逸さない指導（啓発・呼びかけ等）を強化する。			
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、望ましい集団を構築させる。	生徒会活動を支援し、各種委員会を積極的に活動させる。 文化祭、体育祭、生徒総会等の一層の内容の充実を図る。			
進路指導	生徒の3年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	計画的にガイダンス等を実施し、進路意識の向上を図る。 あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力の向上を図る指導を行う。			
	就職希望者への指導の充実を図る。	就職対策講座の充実を図る。社会常識の徹底を図る。 企業訪問等を積極的に行う。			
	進学希望者への指導の充実を図る。	実力テスト等の結果を分析し、学習指導に役立てる。 進路補習、学習合宿等を行い、学力の向上を図る。			

人権教育	あらゆる教育活動を通して、基本的 人権を尊重する精神の涵養を図る。	学校や地域の実態に即した人権教育推進計画を年 度当初に策定し、全校で推進する。また日常的に 計画の実施状況を点検、評価を行い、改善を図り ながら実践に努める。			
	自己と他者を尊重する豊かな感性を 育み、実践できる態度を育成する。	人権教育会議で人権学習や講演会の企画・立案を 行い、関係分掌、教科、当該学年と連携して実施 する。 人権を考えるためのアンケートを1年生に対して 実施し、その分析を通してよりよい人権学習を構 築する。人権学習後に感想文を書かせて、学習効 果を検証しながら改善を図る。			
健康・安全 教育	交通安全や薬物に対しての正しい知 識と理解を深め、マナー・モラルの 向上を図る。	1年生対象に「薬物乱用防止講演会」「非行防止 講演会」を実施する。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、P T Aとの連携を強化し、登下校時の交通安全指導(特 に自転車走行のルール遵守)に努める。 自転車安全走行講習会を実施する。			
	心身の健康状態について自己点検、 自己管理をさせる。必要な生徒に対 して積極的な支援をする。	教育相談・特別支援会議を拡大した教育支援会議 を設置し、幅広く支援の必要な生徒に対して、組 織的な取り組みができるように調整し、個別の支 援を充実させる。 効果的な生活実態調査を実施し、生徒の実態を明 確にし、課題を共有し、具体的な対策を考える。			
	定期及び臨時の健康診断を通じて、 疾病の早期発見・早期治療に努め、 生徒の健康に対する意識や自己管理 能力を高める。	保健だよりや掲示物によって、心身の健康につい て啓発する。 全員に健康診断を受診させ、未受検の生徒には粘 り強い個別指導を行う。 高校生対象の麻疹や子宮頸ガンの予防接種を勧奨 する。			

学校図書館	生徒の読書意欲の向上を推進する図書館教育の充実を図る。	読書推進のため、図書館まつり、移動図書館等様々な取り組みを計画・実施する。 図書館検索システムの活用を推進し、生徒個々への読書相談を充実させる。 朝読書検討会議を中心にして、朝読書（おは読）の取り組みをさらに充実させる。 自主的・積極的な図書委員会活動を進める。			
	視聴覚教育の充実を図る。	視聴覚機器の充実と更新を進め、授業等での利用の調整や学習支援の充実を図る。			
	芸術・文化鑑賞教育の充実を図る。	優れた芸術・文化活動に触れる機会を促進するため、芸術文化団体鑑賞について実施内容・方法を検討する。			
学習環境 安全管理	生徒の美化意識を高め、自分の役割を果たしてきれいな学校作りを推進する。	生徒全員に清掃活動に取り組ませる。 清掃用具を整備し、清掃しやすい環境を作る。 美化委員に、定期的に清掃点検させ、不足箇所を徹底させる。			
施設・設備 管理	安心・安全かつ教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	生徒・教職員の校内連携により破損・不具合箇所の早期発見・早期対応体制を確保する。 効率的な予算執行により教育環境の改善を更に押し進める。			
情報・文書 管理	適正な文書管理による情報管理体制を推進する。	文書の廃棄・保管など校内文書の適正な管理を通じ、より確実な学校情報の管理体制を確保する。			
修（就）学 支援	修（就）学機会保障のための支援策の充実を図る。	在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、修（就）学機会の確保を押し進めるための支援策を広く紹介する。			

家庭・地域 社会との連 携	活発な広報活動や情報発信を行う。	東校だより、学校案内パンフレット等を発行し、生徒募集のアピールを強める。 ホームページやお知らせメールを通じて、保護者や地域への情報発信を行う。			
	P T A活動と連携を図る。	P T A活動に積極的に関わり、社会見学、文化講座、会報誌などの取り組みを実りあるものとする。また、保護者の悩みなど、保護者間の交流も図る。			
	地域の学校として、地域行事等へ積極的に参加させる。	地域との交流を積極的、継続的に実践し、「人間力」を育むキャリア教育の一翼を担う。また、ボランティア活動など、地域への貢献・地域に寄与する学校作りを目指す。			
学 年	【第1学年】 高校生としての自覚を持ち、進路を見据えて目標を持った学校生活を送らせる。	挨拶、言葉遣い、服装などの基本的な生活習慣を確立させる。 学習習慣の確立と基礎学力を向上させる。 自己認識を深めさせ、自己の興味・関心を発見させる。 学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくる。			
	【第2学年】 学校の中核の学年として自覚ある高校生活を送らせる。	挨拶、言葉遣い、服装など基本的な生活習慣を身に着けさせる。 授業中に集中し、家庭学習の習慣をつけることで、基礎的な学力を身に着けさせる。 進路学習などを通し、自分の将来を真剣に考え、具体的な進路目標を立てさせる。 学校行事などの取り組みを通し、集団とのかかわりの中で社会性を育てる。			
	【第3学年】 最終学年として自覚を持たせ、進路実現に向けて充実した高校生活を送らせる。	挨拶や言葉遣いなど基本的な生活習慣を確立させる。 授業を大切に取り組みせ、学力の充実を目指す。 個人面談を密にして個に応じた進路指導を行い進路の実現を図る。 文化祭の演劇発表、自主活動の充実に努める。			

学校関係者
評価委員会
による評価

次年度に
向けた改善の
方向性